

ザ・ジャーナル!!

2006.11
Vol.1 No.3

秋号

“やさしき便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail info@okayama3.hosp.go.jp

This is our hospital ●センターTOPICS ——— 2.3

ジャスト ナウ ● **わいわいの医療を支える専門職** 第2弾 ——— 4.5

シリーズ ●岡山医療センター物語 第3話 国際編

海外派遣報告 ①アフリカ ②アメリカ ——— 6～9

看護師・看護学生募集中! くわしくは→ 10

新シリーズ ●淳ちゃんのワンポイント手話 ——— 11

病院活動案内 ——— 12



写真 | 看護師のみなさん

岡山医療センターの理念

一人にやさしい病院— をめざして

—Human Friendly Hospital—



- 1: 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2: 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3: 地域の人にやさしい病院を目指します

This our

センターTOPICS

岡山医療センターの最近のトピックスを順次ご紹介してまいります。



新事務部長からごあいさつ 事務部長 馬場 洋一



9月1日付で、前任の川瀬事務部長の後任として着任いたしました。私は「国立岡山病院」時代の平成7年4月から2年間、会計課長として在籍し、当時移転予定地であった現在地の遺跡調査や、造成工事、病院建築委員会など移転準備の一端に係らせていただきました。その後転勤し、厚生省、中国四国厚生局、中国四国ブロック事務所、東広島医療センターを経て、約10年ぶりに当院に勤務させていただく

こととなりました。当院は、その間新築移転の大事業があり、独立行政法人への移行という歴史的な変革もありましたが、「新しい酒は新しい革袋に盛れ」という諺のように、斬新なアイデアと思い切った決断、職員の方々の不断のご努力で急速に発展を遂げています。新任事務部長としては、この気運を大切に、まずは来年2受審月予定の病院機能評価(再)の合格を目指し、受審体制とふさわしい環境を整えていかなければと考えています。よろしくお願いいたします。

新任Dr紹介 本年6月から9月に新しく着任したDrの紹介です



精神科 岸口 武寛

6月より勤務させて頂いている精神科の岸口と申します。彼岸花の紅が稲穂に映えて美しい時候、いつまでもその稲穂の様な謙虚さを忘れないようにしたいです。医者になりまだ6年目の若輩者ですが、どうぞ宜しくお願い致します。



泌尿器科 瀬野 祐子

平成12年卒業です。専門は尿路感染症と女性泌尿器科疾患です。患者様に満足していただける医療を目指して頑張りたいと思います。まだまだ勉強中の身ではありますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



循環器 久松 研一

平成8年、大分医科大学卒(現大分大学医学部)。平成16年、岡山大学大学院卒。専門は循環器疾患です。大学院卒業後、当院で循環器科レジデントとして勤務してきました。今後も引き続きよろしくお願いいたします。



放射線科 向井 敬

平成5年3月に岡山大学医学部を卒業し、放射線科に入局しました。最近の10年間はIVR(インターベンショナルラジオロジー;画像ガイド下の治療)を主に担当してきました。血管系のIVR、CTガイド下のIVRなどで診療に貢献したいと思っています。よろしくお願いいたします。



血液内科 下野 玄英

平成8年香川大学医学部卒業です。岡山医療センター着任前は、岡山大学で癌免疫(リンパ球を用いた癌免疫療法)についての研究を行っていました。患者様の病気だけでなく、生活面においてのサポートも出来る限りお手伝いしたいと思っています。何事も精一杯当たりたいと考えていますので、色々ご指導いただければ幸いです。



産科 熊澤 一真

平成4年に大学を卒業後、平成10年に産婦人科専門医を取得し、以降は今日まで産科・新生児領域専門に行ってきました。岡山県の周産期医療発展のため微力ではありますが、頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



麻酔科 下田 豊

9月1日から勤務しております下田豊です。昭和56年卒で専門は麻酔・集中治療です。患者様に安全で快適な周術期を過ごしていただくことを目標としております。よろしくお願いいたします。



呼吸器科 松尾 潔

平成3年岡山大学医学部卒業
内科系呼吸器疾患の診療にあたっております。胸部レントゲンにて異常を指摘されたり、咳痰、労作時の息切れ等の自覚症状がございましたら当院の呼吸器科を受診して頂ければと思います。

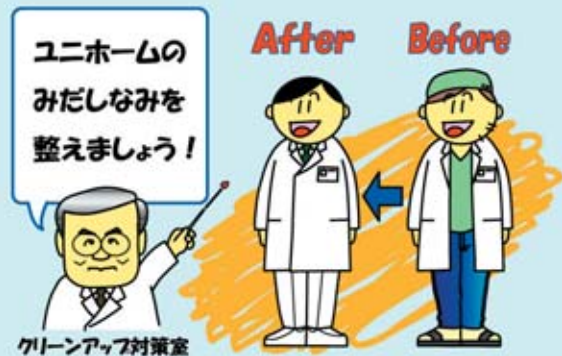
写真は希望により掲載いたしません。



h o s p i t a l !

クリーンアップ対策室が設立されました! 室長 久山 秀幸(脳神経外科医長)

本室の目的は「『職員のユニホームの身だしなみ、職場の整理整頓をみんなで考え、清潔で働きやすい職場にする』にはどうしたらよいか」を考え、職場環境整備の推進を図ることです。救急医療での機能性を保ちながら、感染対策も考え、「見た目が良い」身だしなみに整えるようにしています。院内LANを立ち上げると、最初に図のような絵がスポットとして掲示されるなどの方法で職員に周知徹底しています。現在では、職員の協力で次第に職場環境が改善してきています。



ホームページ運営室から…「HPが新しくなりました!」 室長 津島 知靖(泌尿器科医長)

5年前にHPを開設し、情報発信のツールとして活用してきました。その間に、国立病院から独立行政法人への移行等、病院を取り巻く環境は大きく変化しました。この度、HPの大改訂に取り組んでいます。トップページは8月に改訂し、アップしました。メニュー、新着情報、トピックス、項目一覧を整理し、目的のページがより簡単に見つかるように工夫しました。また、「外来受診される方へ」、「入院される方へ」、「面会の方へ」、「交通アクセス(地図)」を全面改訂しました。受診あるいは面会される皆様にわかり易い内容にしました。また、「外来診療・日割り表」は、従来は各科毎になっていましたが、全科を1ページにまとめました。また、紹介元の先生方からご要望にお応えしてフルネーム表示にしました。さらに、自己紹介にリンクするようにしました。今後は、各診療科、診療部門のページを改訂する予定としています。皆様のニーズに合った最新の情報が簡単に得られるホームページにするべく、これからも改訂を重ねていく予定です。ご意見をいただければと存じます。今後ともよろしくお願い致します。

<http://www.hosp.go.jp/~okayama/>



ボランティア室 便り

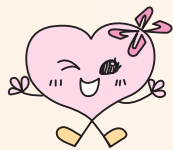
とれたて新鮮! 朝市ご紹介



室長 赤木 美恵(副看護部長)

今年の夏、地元田益町内会から朝市のご提案があり、ボランティア室で受けさせていただきました。7月より毎週金曜日の午前中、田益町内の方々が栽培された、フレッシュな野菜・果物(白桃、マスカット等)を格安に販売しています。外来に来られる患者様やそのご家族だけでなく職員にも大変好評をいただいております。





われわれの医療を支える専門職

第2弾

今回は、前号に引き続いて、「医療を支える専門職」として、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士を御紹介します。私たちの病院では、この他にも多岐にわたる「専門職」が、縁の下の力持ちとして活躍しています。このシリーズは今回でひとまず終了ですが、これからも折に触れて、「プロの技」を紹介してまいります。

看護師 内視鏡技師 原田 幸江

拡大内視鏡観察、内視鏡下粘膜下層剥離術(ESD)、小腸ダブルバルーン内視鏡等、日々進歩している内視鏡分野で当院は最先端を歩んでいます。私たちは通常の内視鏡検査の介助のみならず、このような先進技術に対応できるように研修を積んだ「内視鏡介助のスペシャリスト」です。

現在2名の内視鏡技師がいます。プロとしての意識を持ち、院外研修などへの積極的参加をすることで、知識・技術の向上を常に図っています。後進の育成にも取り組んでいます。



薬剤師 副薬剤科長 三好 浩一郎

医療の高度化、専門化の中で、薬剤師は今まで薬のジェネラリストとして役割を果たしてきましたが、チーム医療の中で、特定の領域や分野において精通した知識、技能を持つスペシャリストとしての薬剤師の必要性が求められ、①がん専門薬剤師、②感染制御専門薬剤師の認

定制度が2006年から新たに始まりました。

①がん専門薬剤師は、患者さま、医師、看護師に対し抗がん剤についての最新の情報を提供しなければなりません。そのために、常に世界的視野で情報を収集し分析する能力が必要です。また、がん化学療法に対して精通して治療の根拠を理解し投与量のチェック、副作用の管理などができなければいけません。そしてチーム医療の中で、がんの患者さまを理解することが大変重要です。

②感染制御専門薬剤師は、病院内感染において感染対策チーム(ICT)の一員として、患者さまをはじめ医療スタッフに対して臨床薬理学的知識をはじめ化学的知識、衛生的知識及び微生物学的知識を駆使し、最新の院内感染対策の情報を提供しなければなりません。また、抗菌薬の適正使用、消毒薬の適正使用については薬剤師が中心となり、患者さまや医師に対して指導していかねばなりません。

また、現在のところ上記の二つの専門薬剤師になるためには、実際かなりハードルが高く残念ながら当院においては、まだ専門薬剤師の認定者がいませんが、現在各種学会の研修会・



資格名
日本医療薬学会認定薬剤師
日本病院薬剤師会がん専門薬剤師 (平成18年からスタート)
日本病院薬剤師会感染制御薬剤師 (平成18年からスタート)
日本病院薬剤師会実務実習指導薬剤師

資格保持者
日本病院薬剤師会実務実習指導薬剤師
藤川 宅美 三好 浩一郎
山本 文雄 田村 浩二
谷口 仁司 國原 将洋

N O



勉強会に積極的に参加し、科員がお互い新たに設定された専門薬剤師の認定取得に向けて熱意を持って切磋琢磨して取り組んでいます。専門薬剤師の認定取得は必ずや当院の医療事故などのリスクマネジメント対策、つきましては患者さまの医療の満足度アップに大きく貢献できるものと確信いたしております。

臨床工学技士

医療機器管理室長 石川 重司

臨床工学技士とは、昭和62年5月に制定された法律に基づく医療業務上の名称です。

業務内容は、医師の指示のもとに「生命維持管理装置の操作および保守点検」を行うことです。

まだまだ、世間の認知度が低い資格ですが、別の呼び方では、ME（メディカルエンジニア）/CE（クリニカルエンジニア）とも呼ばれています。手術室/ICUでは、便利屋さん？

平成13年4月岡山医療センター開院に併せて2名で臨床業務と、医療機器の中央管理を始めました。

外来・入院患者さまの増加、手術件数の増加にともない、業務量も大幅に増え多忙な日々です。（現在は非常勤1名を含む5名）



臨床業務

学会認定士

人工心肺装置操作	体外循環技術認定士……2名
ベッドサイド血液浄化	透析技術認定士……1名
人工呼吸器操作	呼吸療法士……1名
ペースメーカー外来	第2種ME技術認定……4名

他のメディカルスタッフ同様に、直接患者さまの生命に関わる重要な役割と認識し、チーム医療に貢献するようにしていきたいと思っております。

理学療法士

今泉 正樹

私は今年から採用された理学療法士の今泉です。わからないことばかりですが、諸先輩方のご指導を仰ぎながら、がんばっています。

リハビリセンターは、理学療法士8名、言語療法士1名（非常勤を含む）で構成されており、早期離床、機能回復、廃用症候群の予防を目的としたリハビリを行っています。急性期の段階でしっかりとリハビリを行うことができるかどうか、その患者さまの回復期、維持期の容態に大きく影響を与えるため、最短で最大限の能力を引き出せるようプログラムを検討しています。同時にリスク管理も大変重要で、医学的な基礎知識はもちろん、患者さまのちょっとした変化も見逃さない観察力が必要であると感じています。

患者さまは、様々な痛みや不安を抱えておられます。その中で練習を続けていただくための雰囲気作り、信頼関係を築くことは大変難しいと感じる毎日ですが、同時に、やりがいを感じています。

毎日行くのが楽しみになるような、笑い声の絶えない、にぎやかなリハビリセンターを目指しています。ぜひ一度遊びに来てください。



私
た
ち
は
進
化
し
つ
づ
け
ま
す

シリーズ 岡山医療センター物語 第3話

海外派遣報告① 【アフリカ】

AMDAザンビアスタディツアーに参加して

看護師 田中真由美



平成18年8月4日～11日の8日間「2006年夏季AMDAザンビアスタディツアー」に参加しました。8日間という短く、限られた時間で私が目にしたザンビアという国を少しでも理解頂ければと思います。

幼少の頃より海外という異国の地、文化や習慣の違いなどテレビを通しとても興味がありました。学生の頃は国際保健や地域保健などの講義が好きで医療従事者という立場から海外を知りたいと強く思うようになりました。そして、その国が抱えている健康問題に対して看護職という視点から、どのように関わっているのか現状を少しでも理解たく、「2000年夏季JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)スタディツアー」に参加し、バングラデシュに行きました。このことでより一層、国際保健や国際医療協力に関心を抱くようになりました。

今回ザンビア行きを決心したのは臨床で働いている今、学生の頃感じていたことと何か違いはあるのか、将来的に自分はこういった形で国際協力していきたいのか、という思いからでした。特にザンビアという国にこだわって行ったわけではなく、スタディツアーに参加するにあたり、信頼性のある団体というのが一番だったのでインターネットでAMDAのスタディツアーの募集を見つけ、迷わず申し込みをしました。それまでザンビアがいったいどこに位置し、どういった国なのか全く知りませんでした。事前学習としてインターネットで国の情勢などを少し把握した程度で、多少不安を抱きつつザンビア

へ向かいました。ザンビアまでの道のりはとても遠く、関西空港→香港空港→ヨハネスブルグ空港→ルサカ空港と順調に行っても約25時間はかかります。私が日本を出発した日は、香港に台風が上陸したためザンビアに着くまでに2日もかかりました。

ザンビアでは、リビングストーンとルサカ(首都)の2都市を訪ねました。はじめの3日間はリビングストーンで、サファリツアー(リビングストーン国立公園)でゾウ・キリン・シマウマ・インパラなどの野生動物を目にし、世界三大瀑布とされるビクトリアの滝を観光しザンビアの大自然にふれることができました。ルサカでの2日間は、AMDAの事業視察を主に行いました。

ルサカ市の中でも貧しいジョージ地区にあるAMDAコミュニティ・センターは、保健省から敷地の提供を受け農園で大豆やキャベツの栽培を行い、養鶏所も運営していました。AMDA本部からの資金援助は平成18年からなく、会計上自立しているようです。同敷地内のコミュニティ・スクール(50人程度収容可)では学校に通えない子供たちを対象に授業を行い、その授業料は養鶏所などの収益で賄っているようです。隣接してある職業訓練所ではミシンを使った裁縫教室を行っており、卒業後ビジネスを運営していくためにビジネス・会計などの授業も行われていました。また地区にある娯楽施設といえば酒場で、ザンビアで広がっているHIV、アルコール、薬物などの問題の一因と考えられ、ユース・レクリエーション・センターを建設しています。ビリヤード、チェス、バスケットボールなどスポーツの場の提供を行うと同時に、施設内にはHIV/AIDSに関連したポスターが展示しており、保健教育の場としても活用され若者の育成に努めていました。

ルサカ市の最も人口が多く貧しいジョージ地区とカニャマ地区(2地区の人口35万人)で結核患者を対象とした治療プログラム(DOTS)を行って



WORLD REPORT

Republic of Zambia



り、カニヤマ地区のヘルスセンターへ見学に行きました。カニヤマ地区で登録されている結核患者数は約1000人で、集中的に治療を行っている患者は200~400人で、一日に5~6人が結核で命を落としているようです。

結核患者が毎朝ヘルスセンターへ足を運びナースや結核治療サポーターの監視のもと服薬をしていました。以前は週1回で1週間分の内服薬を手渡していましたが、治癒率が上がらず脱落者の増加があったようです。現在もDOTS脱落者の把握に努め、リスクのある患者へはサポーターが患者宅へ訪問し、患者の服薬と健康状態を確認しながら患者及びその家族に対して健康教育を行っているようです。また地区内にみられる結核に対しての偏見を軽減し、感染を防止するために劇・歌などを通じた啓蒙教育も行っているようです。しかしヘルスセンターへ来ていたある結核患者は、結核という病気の知識に乏しく一生治らない、不治の病だと言っておられました。客観的にみるとすばらしいサポート体制が築かれていると感じていましたが、患者一人一人が理解し積極的に治療に取り組んでいくことの難しさを実感しました。そして、このことは日本で働いている私たち自身にも同じことが言えることだと痛感しました。

UTH (University Teaching Hospital: 国立病院) というザンビアで一番大きな病院を見学しました。病床数3000床を抱え、医師約320人、看護師約600人が勤務しているようですが、この3~2倍の人員が必要だと言われていました。看護体制

など詳しいことまでは分かりませんが、病棟見学をただで看護師の数が不足していることははっきりと分かりました。医療器具は日本と同じようなものもあり、緊急時用に点滴や注射類が整理され

ていましたが実際に機能することはなく、壊れたモニターがベッドサイドに置かれたままという状況でした。一般病棟の病室は8~10床といった大部屋、小児病棟では20床程もある大部屋で稼働しているベッドは2~3割程度だったように思います。

道具があるのに故障して使用できない、患者数に見合うだけの物品がない、人員も不足しているという現状を目の当たりにしました。ザンビアをはじめ、他のアフリカ諸国でも同じ様に多くの援助団体が介入しています。AMDAの「現地の最前線には“外国人”は極力顔を見せない」よう現地レベルで現地の人々が自立していく過程を少なからず理解できたように思います。帰国して2ヶ月が過ぎようとしています。正直将来どのような形で国際協力していこうかという明確な答えは出ていませんが、国際協力していきたいという気持ちは変わっていません。今、働いている一つ一つの行動を自分のものとし、将来に役立てていきたいと思っています。

たいへん短い期間でしたが、このスタディツアーで多くのことを学ぶことができました。



シリーズ 岡山医療センター物語 第3話

海外派遣報告② 【アメリカ】

国際肺高血圧症カンファレンスと スタンフォード大学 肺高血圧症センターを視察して……。



看護師 吉井 一恵

私は、3年前、循環器科医長の松原医師が着任されてから、肺高血圧疾患患者様（特にフローラン持続静注治療施行中患者様）と関わるようになりました。

10年前までは、移植しか手がなく大変生命予後の悪い疾患でした。しかしフローランにより予後は随分改善されています。とはいうもののこの治療による患者様の労力というのは大変なものです。現在フローラン治療を行っているのは、日本で約400名といわれています。

当院では、東は、福井県・西は鹿児島県といった遠方にも患者様がおられ、医師をはじめとし私たちCCU・P-CCUの看護師は患者様のQOLの向上を目指しております。

この度私は、アメリカ・ミネアポリスにおいて、PHA（肺高血圧症協会）が主催した国際肺高血圧症カンファレンスと、西海岸で唯一の肺高血圧症センターであるスタンフォード大学を視察する機会を得ました。

カンファレンスの参加者は主として患者様及び患者家族ですが、医師・看護師・ソーシャルワーカーや患者をサポートする様々な業者を含め、延べ1100人程でした。

医療面・社会面・精神面など各方面における専門



スタッフから患者さん・その家族にむけたプレゼンテーションや相互のディスカッションといった内容となっていました。患者さんからは、肺高血圧という疾患を更に知ろうとする意欲、様々な治療によるQOL向上に向けての希望、そして今はまだかなわない内科的治療による治癒への意欲がひしひしと感じられました。

また、患者様同士が、自分自身の闘病生活について語り合うセッションもありお互いに競い合うように自分の体験談を話していたのが大変印象的でした。

スタンフォード大学には、成人・小児にそれぞれの肺高血圧専門看護師・肺高血圧症専門のソーシャルワーカー・病棟看護師・外来看護師・在宅にて指導を担当する看護師がいます。

アメリカでは、看護師の役割も細分化されており、またコメディカルスタッフによるネットワークが十分に機能していることを思い知らされました。私は日々、



WORLD REPORT

United States of America

病棟看護師として在宅における患者様への援助ということに関して、なかなか行き届かないことにジレンマを抱えていたので本当に羨ましく感じました。

しかし、今回の視察を通して、システムの違いこそあれど、スタンフォードの看護師さんたちがやっていることと、私たちが稀少疾患であるがゆえマニュアルもないため3年間試行錯誤してやってきたことに大きな違いがなかったことを感じることもできました。また患者会というものの力の大きさも痛感いたしました。

当院は、肺高血圧症疾患（フローラン持続静注治療施行中患者）の治療成績は症例数が他施設と比べやや少ないにしても、日本において事実上トップであるといえます。そこに勤める看護師としての誇りを持ち、病棟看護師として入院中だけでなく退

院後の日常生活のフォローや、在宅でのトラブルにも対応できるような体制を早期に確立したいと考えています。そしてこの研修で学んだこと、感じたことが少しでも当院の患者さんに生かされるように頑張っていきたいと考えます。



第1回 医療通訳セミナーのご案内

S e m i n a r

国際医療協力室より

岡山医療センターには、しばしば、日本語を話すことができない外国人患者さまが来院されます。

医療通訳のシステム作りが急務です。下記の日程で、医療通訳セミナーを開催したいと思います。医療通訳にご興味がある方で、日本語以外の外国語を話すことができる方を募集します。

日時:平成18年12月23日(土) 午後1時~4時

場所:岡山医療センター4階 大研修室

人数:40名程度 参加費:無料



参加ご希望の方は、12月15日(金)までに、医療通訳セミナー希望と封書に朱書きし、住所、氏名、年齢、電話番号、得意な外国語を書いた紙を同封のうえ、下記宛に郵送してください。

〒701-1192 岡山市田益1711-1 NHO岡山医療センター 国際医療協力室 臼井 由行

病院の進化に向けて看護師を大募集中!

花と笑顔と語らいの病院でいっしょに働きませんか?

本院は現在、入院病床580床、内科・外科・小児科…など標榜診療科26科を有する急性期病院ですが、来年から更に診療・看護の内容充実のため、現在の看護師430名を大幅に増員し530名にすべく看護師の大募集を行っています。

転職をお考えの看護師さん、来年看護師になれる学生さん、現在事情で仕事から離れ再就職をお考えの看護師さん、活気のある病院で働こうと思われるファイトある方をお待ちしています。

まず、ご一報ください。

(常勤職員の身分は
国家公務員に
なります)



- 院内に保育所を設置
(保育時間8～18時)
 - 宿舎5階建100室
(ワンルームタイプ、キッチン・バス・トイレ付)
- ※詳細はお問い合わせください



- 採用試験面接
申込み切 平成18年11月7日(火)
実施日 平成18年11月16日(木)
- 今後の採用試験日程
平成18年12月14日(木)
19年2月8日(木)

※申込みメ切り日の詳細は、当院ホームページを御覧下さい

連絡・問い合わせ 人事担当/黒田
TEL.086-294-9911(内線8183)

看護学生募集のお知らせ

岡山医療センター附属岡山看護学校では、平成19年4月から学生定員を40名増員し1学年120名の学生を募集中です。そのため現在、校舎も増築し整備をすすめています。看護学校に入学されると隣接した母体病院である岡山医療センターで、直に患者様とふれ合いながら臨地実習をすることができます。また、授業では、高度医療や国際協力などに携わる医師や看護師から生きた体験の話をさくことができます。豊富な講師陣、充実した実習環境は私たちの学校の魅力の1つです。そして、卒業後は優先的に岡山医療センターへ就職が可能です。

将来にたくさんの夢と希望を持ち、看護師への道を
目指されている方、是非、受験してみませんか。
お待ちしております。

一般入学試験は下記のとおりです。

願書受付:平成19年1月4日(木)～1月16日(火)

試験日:A日程、B日程のいずれかを選択して
受験してください

A日程:平成19年1月24日(水)

B日程:平成19年1月31日(水)

試験科目:試験は全科目・全問マークシート方式です

国語総合・現代文 英語Ⅰ・Ⅱ

数学Ⅰ 面接

合格発表:平成19年2月9日(金)



ボランティアさん大募集!!

ボランティア室より

前号でもお伝えしましたように現在約30名の地域の方々にボランティア活動を行っていただいておりますが、まだまだ人手不足の状況です。ご興味のある方、ふるってご応募ください。
お問い合わせは、当院管理課 尾田(内線8181)まで。

(応募条件)

活動日時は、月曜日から金曜日の8:30~15:30(土、日、祭日は除く)です。時間をご都合の良い時間で結構です。

(仕事の内容)

- ①外来患者様のご案内 ②リハビリ終了後の患者様の車椅子等介助 ③外来観葉植物の手入れ
- ④3階ミニ文庫の本の整理整頓 ⑤6B病棟の患児へ本の読み聞かせ等

理学療法士(非常勤)、診療放射線技師(非常勤)、 調理師募集中!

各1名募集中です。詳しくは当院ホームページをご参照いただくか、
管理課 黒田までご連絡ください。(連絡先は看護師募集の欄参照)

新シリーズ!

[連携室] 淳ちゃんのワンポイント手話

手話にチャレンジ!

病院で役立つ手話

編集長よりひとこと…

新シリーズ「淳ちゃんのワンポイント手話」は、
地域医療連携室の手話の達人、淳ちゃんが企画担当する新コーナーです。

今回の患者さん役は「信ちゃん」です(さーて、
だれでしょう!?)。それでは、淳ちゃん、おねがいします!

今まで聴覚障害者の患者さんに接した経験
をお持ちでしょうか?

聴覚障害者は社会や家庭生活上、さまざまな不便やハンディを持っています。特に生命にかかわる医療現場において「名前を呼ばれてもわからない」「手話が通じない」「医師や看護師への配慮からよほどのことがないと病院に行かない」など深刻な問題をかかえています。そこで医療従事者が少しでも手話を表現することで、お互いのコミュニケーションが取れてよりよい関係を築き、聴覚障害者が少しでも安心して医療を受けることができるよう現場で役立てていただければ幸いです。

Q どうなさいましたか?

淳ちゃん



右手のひらを
体の前で回す



両手のひらを前に
向けて、交互に
上下させる



右人差指を
左右にふる

A おなか が 痛い です

信ちゃん



両手を
腹にあてる



全指を折り曲げた
右手を痛そうに
握る

胸が 苦しい です



全指を曲げた
右手を胸に
当てて回す

咳が できます



せきこむように
右手のこぶしを口に
軽く2度当てる

[病院活動案内]

地域医療研修室 セミナー・講演会(12月~2月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30~20:30

日程	種別	演題/内容	演者
12月19日(火)	初期治療セミナー	他科の先生方のための皮膚科の知識 —熱傷—	当院皮膚科 益田 俊樹
1月16日(火)	初期治療セミナー	他科の先生方のための耳鼻科の知識 —ありふれた耳鼻科疾患のプライマリ・ケア—	当院耳鼻科 木林 並樹
1月25日(木)	講演会	ありふれた皮膚疾患のトピックス —疥癬、男性脱毛症、爪白癬の内服療法—	当院皮膚科 益田 俊樹
2月20日(火)	初期治療セミナー	他科の先生方のための整形外科の知識 —高齢者の骨折(手関節、腰椎、股関節)—	当院整形外科 塩田 直史

●職員宿泊研修について●

管理課 栗元 寛幸



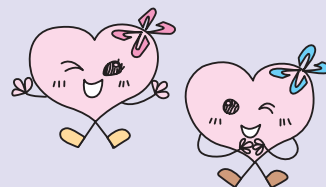
当院では、職員を対象に岡山医療センターの発展・改善に向けて、様々なテーマについてみんなで考え、また、同時に視野を拡げ知識の向上を図ることを目的に院外宿泊研修会を開催しています。土曜日の午後から日曜日の午前中までの1泊2日の日程で、初日は班別毎に討議し、2日目は討議結果を班別毎に発表し、その後全体で議論します。平成17年2月~平成18年10月の間に計11回の研修会を開催し、医師・コメディカル・看護・事務・看護学校の各部門から合計440名の参加が得られました。これまでの主な討議内容としては、敷地内禁煙・患者サービス・経費節減・安全管理等でしたが、今年に入ってからは研修医を中心とした初期臨床研修、また、入職間もない若手看護師、レジデントを中心とした接遇研修が熱心に行われました。院外研修を通して、職員間の親睦のみならず、病院運営に対する意識が高められています。

●ハートちゃん、表彰式行われる●

広報誌編集チーム 藤田 圭二(臨床検査科)

広報誌キャラクターコンペの表彰式が行われました。当選作品は、もう皆さんよくご存知?のように可愛いハートの形をした、その名もズバリ“ハートちゃん”。そして、多数の応募作品の中から見事に選ばれた“ハートちゃん”を生み出したのは志水夫妻と愛娘の莉音(りおん)ちゃんです。表彰式では、広報誌担当スタッフも同席して、青山院長から感謝状、花束、記念品、副賞が手渡されました。注目の記念品は、80cmもある“ハートちゃん”ぬいぐるみ(特注です!)でした。(注意:残念ながら現在のところ、一般販売は致しておりません)

志水夫妻は青山院長との歓談中も本当に嬉しそうにされており、また莉音ちゃんが時折見せてくれる愛らしい笑顔がいつそう場を和ませてくれました。世界に1つしかない“ハートちゃん”いつまでも大切にしてくださいね!



編集者から ●あとかぎ

いつのまにか空が高く肌寒い季節になりました。温泉と暖かい鍋が恋しく、夜空がきれいな季節の到来です。北朝鮮の核実験のニュースやそれに伴う国連の制裁決議案など世界はめまぐるしく動いています。私達のザ・ジャーナルもそんな世界情勢に遅れをとらないよう、岡山医療センターの‘今’をみなさんにお届けできたらという思いで取り組んでいます。

(原 記)

ザ・ジャーナル!!

第1巻 第3号

平成18年11月1日発行(年4回発行)
編集責任者 大森信彦
独立行政法人 国立病院機構
岡山医療センター 地域医療連携室
広報誌編集チーム
〒701-1192 岡山市田益1711-1
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255